

Accuphase

INTEGRATED STEREO AMPLIFIER

インテグレートッド・ステレオアンプ

E-212

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早め(なるべく10日以内に)ご返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

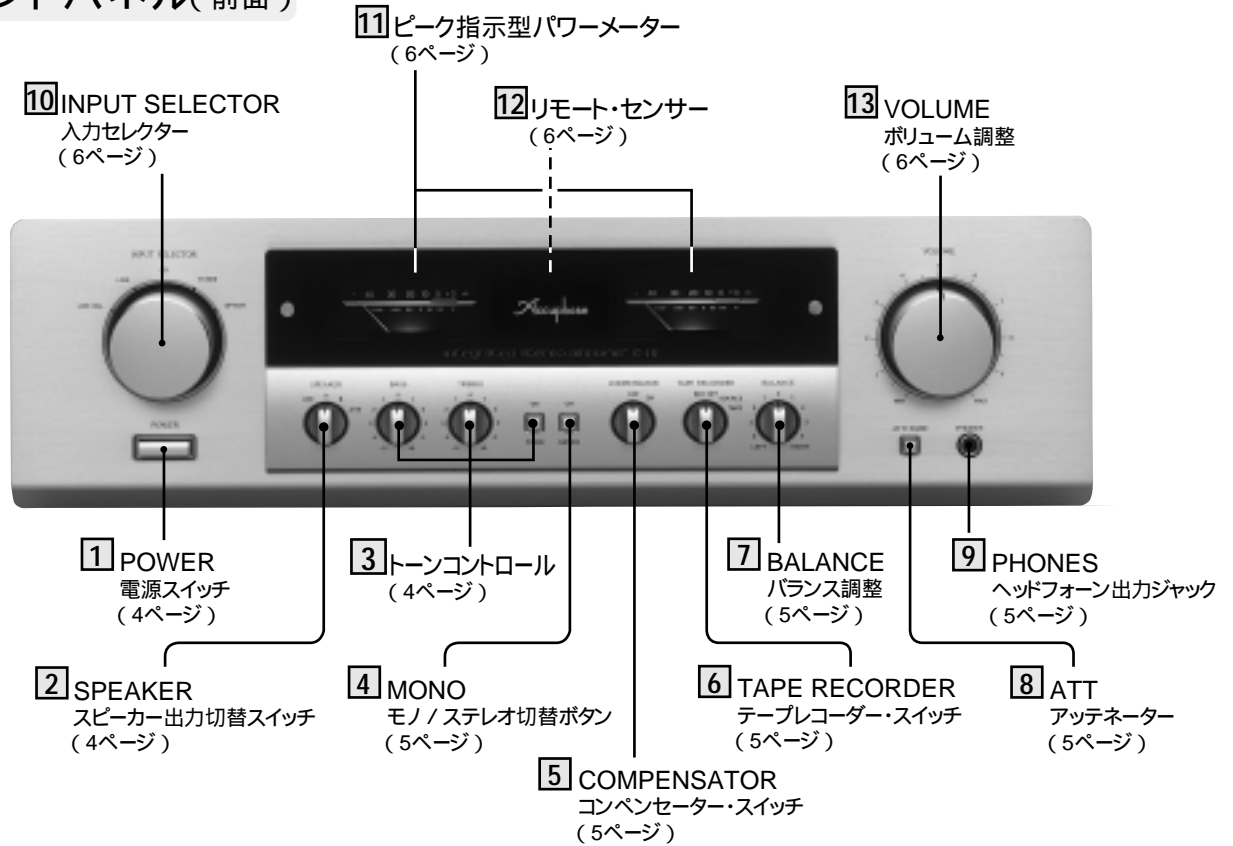
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
2. 接続図	2
付属品を確認します	2
3. △警告 安全上必ずお守りください / △注意	3
4. 各部の動作説明	4~7
5. ご使用方法	
CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏	8
チューナーで放送を聴く場合	8
テープレコーダーで録音・再生をする場合	9
6. オプション・ボード	10
オプションの使用方法	
CDなどをデジタル入力で演奏	10
アナログ・ディスクの演奏	11
オプションの種類	
ライン入力ボード LINE-9	11
デジタル入力ボード DAC-10	11
アナログ・ディスク入力ボード AD-9	12
オプションの取り付け方法	13
7. リモート・コントロール	14
使用法 / 電池について	14
8. 保証特性	15
9. 特性グラフ	16
10. ブロック・ダイヤグラム	17
11. 故障かな?と思われるときは	18
12. アフターサービスについて	19

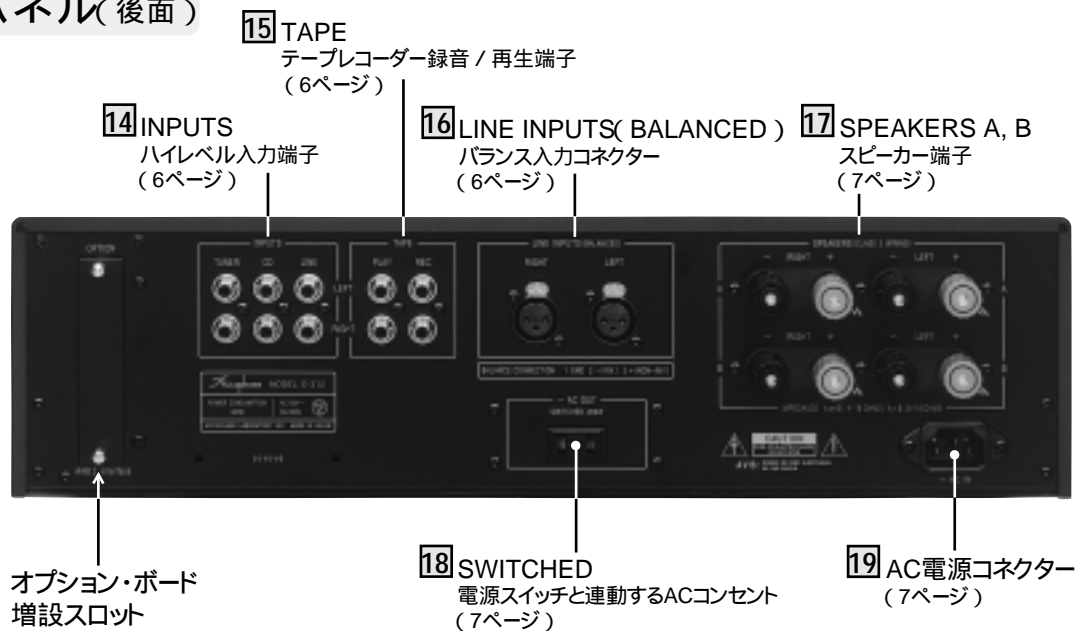
1. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



2. 接続図

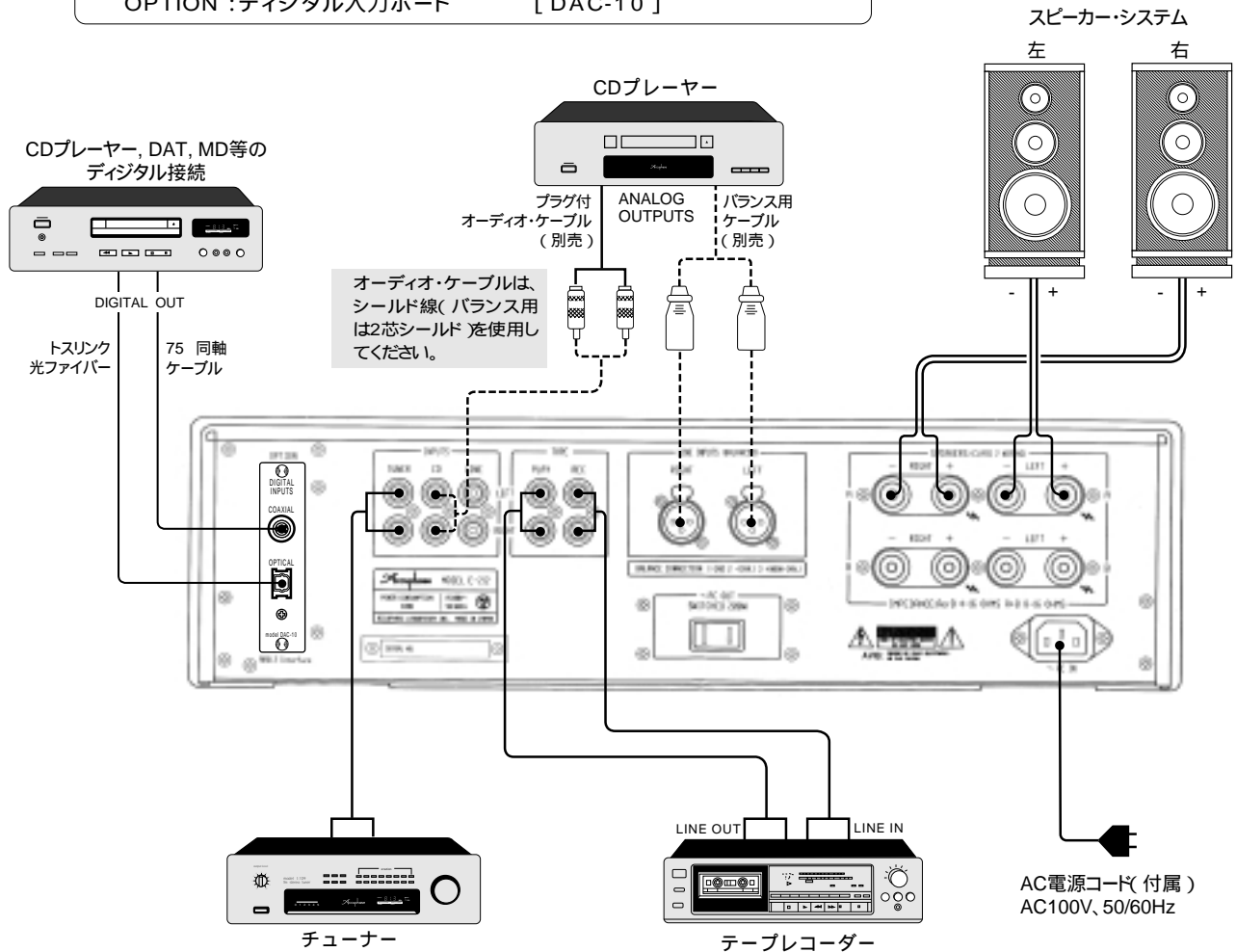
⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

イラストはオプションを増設した場合の接続例です。

注意 DAC-10とデジタル機器との接続は、75 同軸ケーブルまたはトスリンク光ファイバーを使用します。
アナログ・レコードの演奏は、アナログ・ディスク入力ボードAD-9を増設します。
アナログ入・出力の接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左) RIGHT(右)を正しくつないでください。
アナログ出力のバランス用とアンバランス用ケーブルは、同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

オプション(別売)の増設例(オプションの種類は11, 12ページ参照)

OPTION : デジタル入力ボード [DAC-10]



付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
単3形乾電池	2個
リモート・コマンダー RC-23	1個

3. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属以外の電源コードは絶対に使用しない。
ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上がり火災や故障の原因となります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)や燃えやすい物が入った場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
落としたり、破損した場合。

注意

次の場所に設置しない。故障や火災の原因となること
があります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所。
直射日光の当たるところ。
暖房器具の近く。
振動や傾斜のある不安定な場所。

他の機器と直接重ねて使用しない。

放熱には、上下の通気孔による自然対流の空冷方式を採用していますので、通気孔をふさがないでください。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは一瞬、側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

オプションの増設について

CDプレーヤー、DAT、MDなどをデジタル入力で演奏する場合(10、11ページ)

別売のオプション、デジタル入力ボードDAC-10をリアパネルの Slots に増設、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号を入力して演奏することができます。

アナログ・ディスクを再生する場合(11、12ページ)

別売のオプション、アナログ・ディスク入力ボードAD-9(またはAD-10)をリアパネルの Slots に増設してください。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

4. 各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約6秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

2 SPEAKER — スピーカー出力切替スイッチ

スピーカー端子A、Bに2系統のスピーカーを接続することができ、それらを選択するスイッチです。

OFF

ヘッドフォンだけで聴く場合や、スピーカーから音を出さない時にはこの位置にします。

A、B

スピーカー端子A、Bどちらか1系統を選択します。

A + B



2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。この場合は、インピーダンス8 Ω以上のスピーカーを接続してください。

A / B端子それぞれから、スピーカーの低音用 / 中・高音用端子と接続するバイワイヤリングの場合にも、このポジションにします。

3 TONE、BASS、TREBLE トーンコントロール

TONE トーンコントロールON/OFFボタン



押して“ ON ” : ボタンは 
再び押すと“ OFF ”: ボタンは 

“ ON ”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。

“ OFF ”にするとBASS / TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。

BASS 低音コントロール

センター(0)から右にまわすと低音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 300Hz

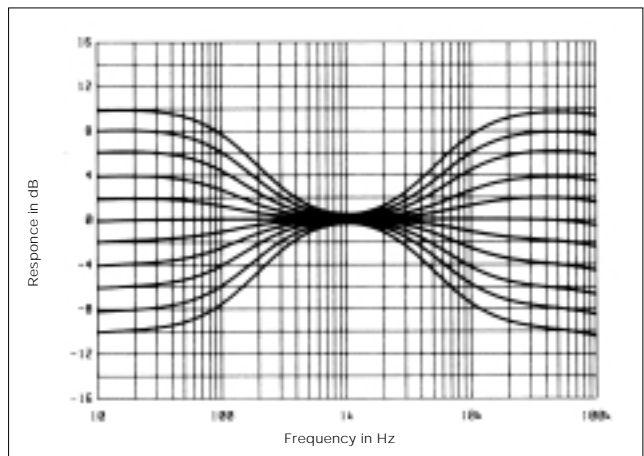
変化量 : 50Hzで±10dB

TREBLE 高音コントロール

センター(0)から右にまわすと高音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 3kHz

変化量 : 20kHzで±10dB



トーン・コントロール特性

4 MONO モノ/ステレオ切替ボタン

ステレオとモノフォニックの切替ボタンです。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



押して“ MONO ”(モノフォニック) : ボタンは
再び押すとステレオ再生 : ボタンは

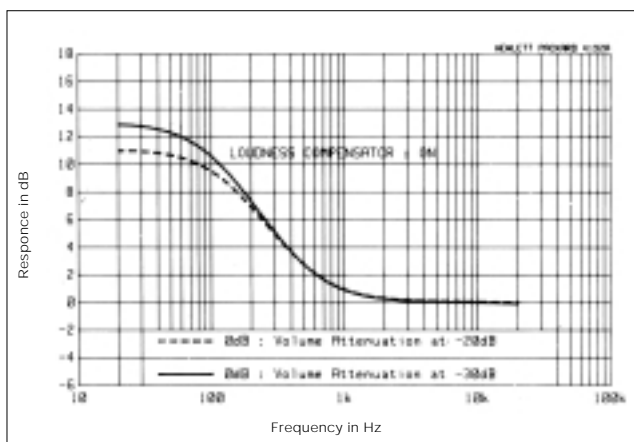
注意

録音をするとき“ MONO ”の状態では、レコ - ディング出力もモノフォニックになりますので、注意してください。

5 COMPENSATOR コンペンセ - タ - (聴感補正)スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音・高音が不足してきます。この量感を補うために、本機では低音200Hzを+6dB上昇させることができます。

増強する量はボリュームを - 30dB絞ったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。



コンペンセーター特性

6 TAPE RECORDER テープレコーダー・スイッチ

REC OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セレクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、録音用“ REC ”端子に信号は出力されません。

SOURCE

録音する場合にはこのポジションにします。入力セレクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、“ REC ”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

TAPE

テープ再生の場合には、TAPE端子へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択します。録音時にこのポジションに切り替えると、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

7 BALANCE バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。通常はセンターで使用します。

8 ATT アッテネ - タ -

出力レベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。減衰レベルは - 20dBです。

ATT(-20dB)



押して“ ON ” : スイッチは
再び押すと“ OFF ” : スイッチは

9 PHONES ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。

ヘッドフォンだけで聴く場合には、SPEAKERスイッチで出力をOFFにします。

音量調整はメインボリュームを使用します。

インピーダンス8 ~ 100 のヘッドフォンをご使用ください。

10 INPUT SELECTOR 入力セレクト

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモート・コマンダーRC-23でも同様に切り替えることができます。

CD、TUNER、LINE

一般的なアンバランス方式で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

LINE BAL

リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

OPTION

リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

オプション・ボードは10～12ページ参照

INPUT SELECTORノブは指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

11 ピーク指示型パワーメーター

メータースケールは、出力レベルをdB(デシベル)で表示し、同時に8 負荷のワット数が直読できます。4 で2倍、16 の時は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記のような出力値になります。

メーター表示

	4 負荷	8 負荷	16 負荷
0dB	180W	90W	45W
10dB	18W	9W	4.5W
20dB	1.8W	900mW	450mW
30dB	180mW	90mW	45mW
40dB	18mW	9mW	4.5mW

このパワーメーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

12 リモート・センサ

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-23の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

13 VOLUME ボリュ - ム調整

リモート・コマンダーRC-23でも同様に作動させることができます。

入力を切り替えたり、電源を切るときなどはボリュームを下げてください。

14 INPUTS:TUNER、CD、LINE ハイレベル入力端子

この入力端子はアンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

15 TAPE テ - プレコ - ダ - 録音 / 再生端子

テープレコーダーを接続します。

“PLAY”端子 テープレコーダーの“LINE OUT”
“REC”端子 テープレコーダーの“LINE IN”

REC端子の出力信号は、本機のボリューム、トーン、コンペンセーターなどの影響を受けません。

MONOボタンがMONOになっていると、REC端子の信号もモノフォニックになります。録音時にはご注意ください。

16 LINE INPUTS(BALANCED) バランス入力コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、

: グラウンド

: インバート(-)

: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

17 SPEAKERS A、B スピーカ端子

A、B端子に2系統のスピーカー・システムを接続することができます。

- * インピーダンス4～16 Ωのスピーカーを使用してください。
- * 2組のスピーカーを同時に鳴らす場合には、インピーダンス8～16 Ωのスピーカーを使用してください。
- * バイ・ワイヤリング接続の場合は、A / B端子それぞれから、スピーカーの低音用 / 中・高音用端子と接続します。

18 SWITCHED 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON / OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON / OFFすることができます。

接続する機器の消費電力の合計が200Wを超えないようご注意ください。

19 AC電源コネクター

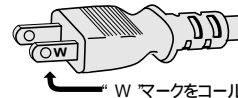
付属の電源コードを接続します。



警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードの極性表示について
本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。



「W」マークをコールド側にする。

注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示されることがあります。本機のSWITCHEDコンセントは、左側がコールド側です。

5. ご使用方法

使用される前にツマミやボタンの位置を確認します。

VOLUME	: 下げた(左にまわしきった)状態
SPEAKER	: AまたはBの接続したポジション
TAPE RECORDER	: REC OFF
COMPENSATOR	: OFF
MONO, TONE, ATT	: OFF(ボタンは■)
BALANCE	: センター

CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用'LINE INPUTS'端子をご使用ください。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤー、パワーアンプの電源を"ON"にします。

入力セレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。

CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

MONOスイッチをモノフォニック状態にし、音像が中央に定位することを確認したり、トーン、コンペンセーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、バランス用'LINE INPUTS'端子をご使用ください。CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

テ - プレコ - ダ - で録音・再生をする場合

リアパネルのTAPEにテープレコーダーを接続します。

REC 端子	テープレコーダーのLINE IN端子
PLAY 端子	テープレコーダーのLINE OUT端子

再生:プレイバック

TAPE RECORDERスイッチでTAPEに合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

テープレコーダを再生だけに使用の場合は、各ライン入力端子を使うことができます。

録音:レコ - デイング

レコーディングの操作手順

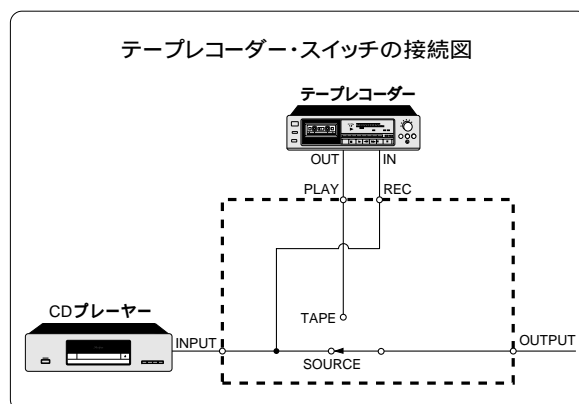
録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

TAPE RECORDERスイッチを SOURCEポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。

テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のボリューム、トーン、コンベンセーターやバランスなどは、録音される音には関係ありませんので音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。

TAPE RECORDERスイッチをTAPEへ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)



注意

MONOスイッチがON(モノフォニック状態)になっていると、録音出力もモノフォニックになってしまいますから注意してください。

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。入力セクターなどの位置に関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

6. オプション・ボード

E-212には、デジタル入力ボード、アナログ・ディスク入力ボード、ライン入力ボードの3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロットに増設してください。

オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行なってください。
アナログ・ディスク入力ボードAD-10、ライン入力ボードLINE-10も使用できます。
デジタル入力ボードDAC-10は、E-407、E-406V、E-306V、E-211、C-265の機種には使用できません。

オプションの使用方法

CDなどをデジタル入力で演奏

オプションで、デジタル入力ボード(DAC-10)を増設します。

CDプレーヤー、DAT、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を入力して演奏します。

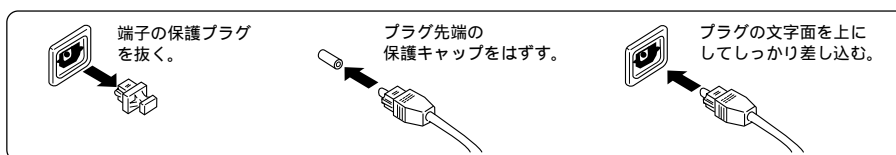
接続ケーブル

COAXIAL 端子

ピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続してください。

OPTICAL 端子

EIAJ規格の光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターは、DAC-10を増設したOPTIONを選択します。

入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

注意

本機はOPTICAL優先自動切替方式を採用しています。

COAXIALとOPTICALの両端子に機器を接続することができます。

同時に両信号を入力した場合は、OPTICAL(光ファイバー)で入力したソースを優先して演奏します。

COAXIAL信号を演奏する場合は、OPTICALの接続をはずすか、OPTICALでの入力機器の電源をOFFしてください。

同軸ケーブルの信号を演奏中に、光ファイバーの信号が入ると光ファイバー入力の演奏に切り替ります。

アナログ・ディスク(AD)の演奏

オプションで、アナログ・ディスク入力ボードAD-9(またはAD-10)を増設します。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチの設定(12ページ参照)をします。

MM/MCの設定

MCの場合入力インピーダンスの選択: 10/30/100

サブソニック・フィルターのON/OFF

レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターは、AD-9(またはAD-10)を増設したOPTIONを選択します。

レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。

レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、可聴帯域への影響を軽減することができます。

オプションの種類

表示価格は税別です。

ライン入力ボード

LINE-9

希望小売価格 6,000円



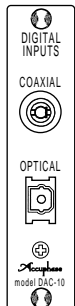
本体のINPUTSと同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

LINE-10も使用することができます。

デジタル入力ボード

DAC-10

希望小売価格 50,000円



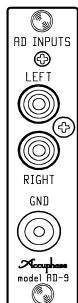
同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます。

接続ケーブル

- COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続
(OPTICAL優先自動切替)

保証特性、適合規格

- 入力フォーマット : EIAJ CP-1201 / AES 3に準拠
- サンプリング周波数 : 32kHz ~ 96kHz
- デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
OPTICAL -27 ~ -15dBm



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

LEFT, RIGHT - アナログ・プレ - ヤ - 入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

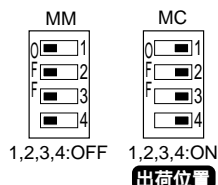
GND - ア - ス端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ていアース線を接続します。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチの設定をします。

注意 スイッチの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性が得られません。

S1、S2: MM/MC - イコライザーゲインの切替



MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ

ゲイン : 36dB

入力インピーダンス: 47k

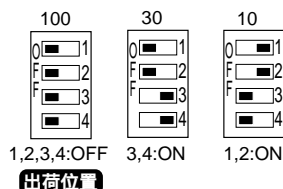
MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ

ゲイン : 62dB

入力インピーダンス: S3で切り替え

S1, S2の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

S3: MCの入力インピーダンスの選択



一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

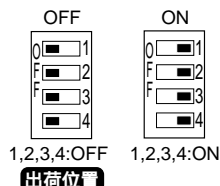
20 以上 : 100 に設定

20 以下 : 30 または10 に設定

カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。

S3で左右チャンネル同時に設定されます。

S4、S5: サブソニック・フィルターのON/OFF



このフィルタ - は、超低域25Hz以下を - 12dB / octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

S4, S5の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

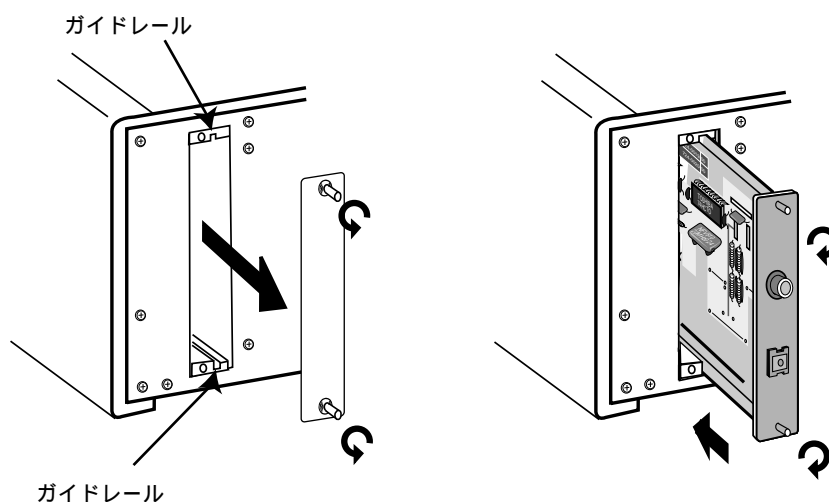
オプションの取り付け方法

E-212の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

E-212挿入口の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラスト図は、DAC-10を示します。

⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずE-212の電源を切る。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となることがあります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。接触不良や回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締める。締めつけが不十分ですと、端子がグランドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

7. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC 23の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-23を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

INPUT SELECTOR - 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押しますと、INPUT SELECTORツマミの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

VOLUME - ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており **+** ボタンを押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、**-** ボタンを押し続けていると左に回転し音量は減少します。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の **12** リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月もちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、**+** (プラス) **-** (マイナス) を正しく合わせる。

新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。

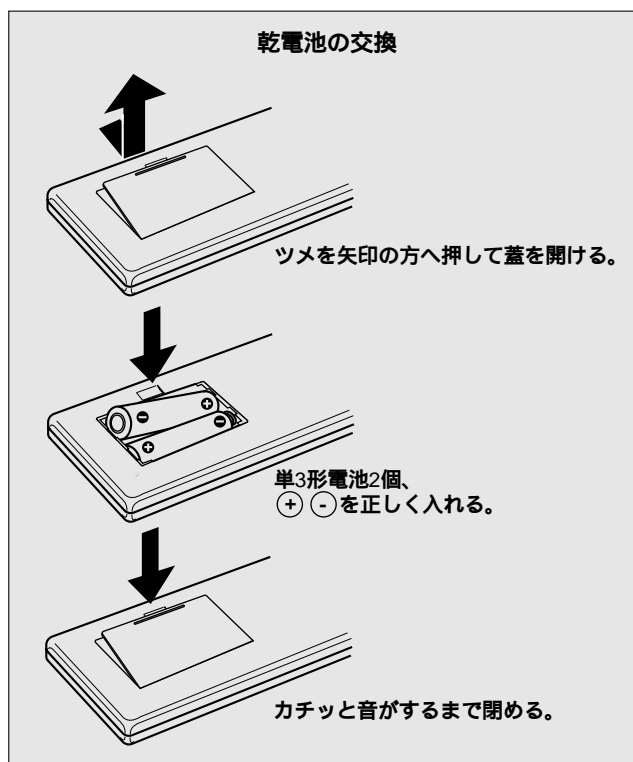
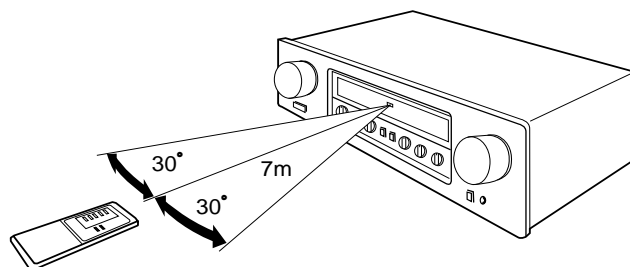
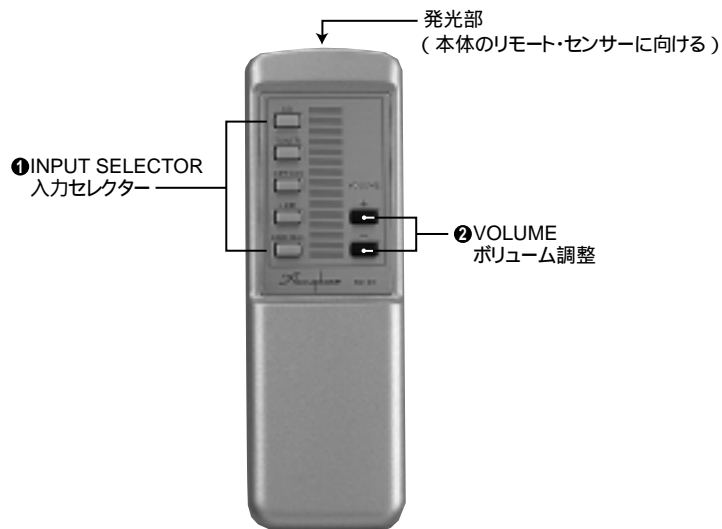
種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。



8. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

115W/ch	4 負荷
105W/ch	6 負荷
90W/ch	8 負荷

全高調波ひずみ率(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

0.04%	4 ~ 16 負荷
-------	-----------

IMひずみ率

0.01%

周波数特性

HIGH LEVEL INPUT : 20 ~ 20,000Hz 0 - 0.2dB
(UNBALANCED/BALANCED、定格連続平均出力時)

ダンピング・ファクター

110 (8 負荷 50Hz)

入力感度・入力インピーダンス

入 力 端 子	入 力 感 度		入力インピーダンス
	定格出力時	EIA(1W出力時)	
HIGH LEVEL INPUT	213mV	22.5mV	20k
BALANCED INPUT	213mV	22.5mV	40k

ゲイン

HIGH LEVEL INPUT OUTPUT : 42dB
(UNBALANCED/BALANCED)

トーン・コントロール

ターンオーバー周波数および可変範囲

低音: 300Hz ± 10dB(50Hz)

高音: 3kHz ± 10dB(20kHz)

ラウドネス・コンペンセーター

+ 6dB(200Hz): VOLUME - 30dBにて

S/N・入力換算雑音

入 力 端 子	入力ショート(A・補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
HIGH LEVEL INPUT	110dB	-129dBV	81dB
BALANCED INPUT	92dB	-111dBV	81dB

パワーメーター

対数圧縮型ピークレベル表示
dB目盛および8 負荷時の出力直読

負荷インピーダンス

4 ~ 16

ステレオ・ヘッドフォン

適合インピーダンス 8 ~ 100

電源

AC100V 50 / 60Hz

消費電力

30W	無入力時
220W	電気用品安全法
336W	8 負荷定格出力時

最大外形寸法

幅475mm×高さ150mm×奥行422mm

質量

18.9kg

付属リモート・コマンダー RC-23

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

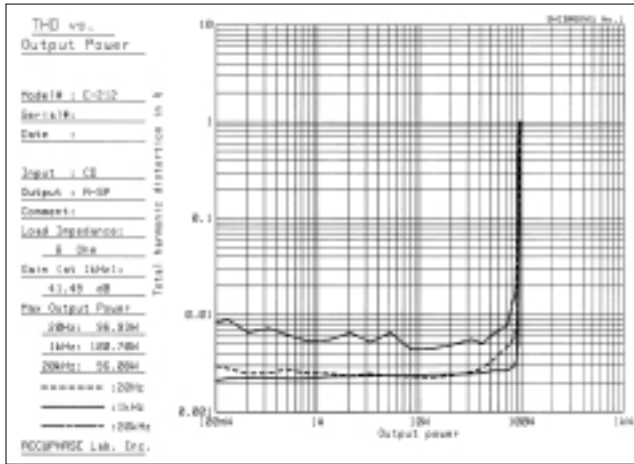
電 源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 45mm×136mm×18mm

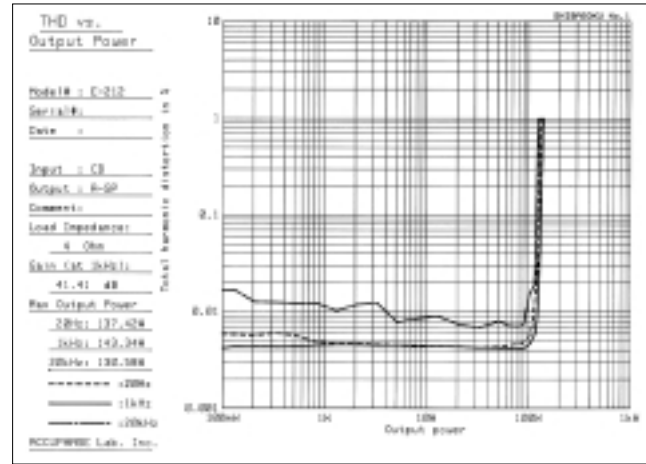
質 量 : 85g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

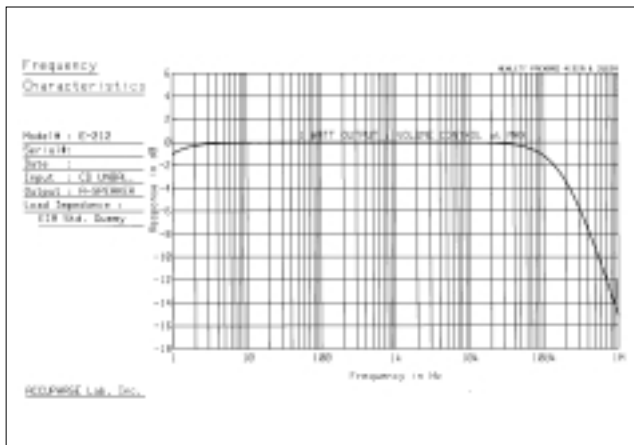
9. 特性グラフ



出力電力 / 全高調波ひずみ率特性 (8 負荷時)



出力電力 / 全高調波ひずみ率特性 (4 負荷時)



周波数特性 (8 負荷、ステレオ1W出力時)

著作権について

放送や録音物 (CD、テープなど) から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

11. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。

音がでない

ソース側機器の電源は入っていますか。
 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
 入力切替スイッチの位置を確認します。
 テープレコーダー・スイッチの位置を確認します。
 スピーカー・スイッチを確認します。

片側のスピーカーから音が出ない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
 バランス・コントロールの位置を確認します。
 スピーカー・コードを左右入れ替えます。
 同じスピーカーから音がでない……コードとスピーカーのチェック
 左右逆の状態になる……本機やソース側機器に原因が考えられます。
 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
 同じスピーカーから音がでない……本機に原因が考えられます。
 左右逆の状態になる……コードやソース側機器に原因が考えられます。

定位感がはっきりしない

本機とスピーカー端子の極性(+ / -)は正しく接続されていますか。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
 新しい電池に交換してみましょう。
 受光部付近に障害物はありませんか。

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。
 保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお薦めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。
 Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX045(901)8995

当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)
 モデル名、シリアル番号 ご住所、氏名、電話番号
 ご購入日、ご購入店 故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川 2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)